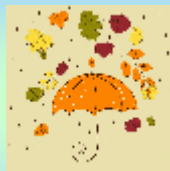


《 第 52 号 》

ぼちぼち



NPO 富士北麓まちづくりネットワーク会報

発行：NPO富士北麓まちづくり
ネットワーク
発行日：2016年10月1日
責任者：代表理事 飯田 勇夫
住所：〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田965-4
制作：広報渉外部会
事務局電話 & FAX：0555-23-0202
<http://www.geocities.jp/mk/in1962/>

「昭和は遠くなりけり」

代表理事 飯田 勇夫

俳人、中村草田男（なかむら・くさたお）は昭和6年、母

校の小学校を訪ねた際に降る雪や 明治は遠く なりにけり」と詠み、句集ホトトギスにその句を残している。自分の生まれた時代「明治」が矢の如く過ぎ去っていくことに、自分の人生を重ね合わせてこの句を

詠んだものと思われる。

昭和20年生まれの私は、母が働きに出ていたため祖母に育てられた。物心付いた5、6才のある日、「お前は生まれ変わらね」と祖母から優しい目で語りかけられたことを今でも覚えている。当時は何のこ

とやらさっぱり分からなかったが、そんな祖母も私が小学1年の初冬この世を去ってしまった。

今年の初冠雪は、9月24日(土)でした！

それから40年たったある日、母が急に鹿児島を知覧へ連れて行って「これはないか」と私に相談を持ちかけてきた。母は4人兄妹の末っ子だが、特攻隊で亡くなったすぐ上の兄の遺品を展示していると言う知らせと、知覧特攻基地戦没者慰霊祭への招待状が、当時の知覧特攻平和記念館の館長・板津忠正氏から母に届いたからである。



知覧の街路樹欄と灯籠

期日はゴールデンウィークど真ん中の5月3日。その日、知覧特攻基地戦没者慰霊祭が行われるのである。是非、慰霊祭に参加し、そして兄の遺品を確認したい、と言う。

そんな母の思いがあまりにも強く、私に有無を言わせなかった。私は慌てて旅行会社に電話したものの、二週間前ではどの航空会社も満席。羽田・鹿児島便にこだわらず交渉した結果、何とか羽田・長崎便が確保できたが、帰りはゴールデンウィーク明けの6日、宮崎・羽田便しか取れなかった。

知覧町は薩摩半島の真ん中に位置し、城下町として栄えた薩摩の小京都と言われる武家屋敷は、多くの観光客が訪れる場所でもある。町中の街路樹はすべて横、刈り込まれて手入れの行

き届いた横と横の間に特攻隊員1,036柱の御霊である石灯笼が交互に並び、知覧特攻平和記念館まで続く。

その道沿の一角に軍の指定食堂であった富屋食堂が今もその姿を残している。当時、特攻隊員の憩いの場として、また隊員が家族と面会ができる唯一の場として利用され、その女将であった鳥濱トメさんは、多くの特攻隊員の面倒を見てやったことから「特攻の母」と隊員から慕われ、映画やテレビでも紹介された人物である。

ボチたまの部屋

今夏の参院選は与党が三分の二を占めるかが、最大の焦点だった。すでに衆議院で与党は三分の二を占めているから、参議院でも占めれば、改憲発議が可能となるからだ。しかし、参院選中、高知新聞が有権者100人に「三分の二」の意味を質問したら、83人が「知らない」と答えたそう。今後、「改憲に賛成か。反対か」は国会が発議して国民投票になるだろうが、この「無関心さ」はそれ以前の大問題だと思う。安保問題、共謀罪、憲法改正……今後の国民生活を左右するような重要なことと、もっと関心を持ちましよう。(A)



特攻隊員の憩いの場、富屋食堂

タクシーで進むと、広大な駐車場が現れた。その奥に今日行われる知覧特攻基地戦没者慰霊祭会場の白いテント群が見えた。

車を降りて会場に入ると、既に全国から遺族、慰霊祭関係者、航空自衛隊関係者が集まっていた。受付を済ませたものの、式典までは時間があるため会場の席位置を確認し、今回知らせを下さった知覧特攻平和記念館の館長にお会いしようと言うことになった。

式典会場に入った私は、遺族席最前列に母と自分の名札を見つけてそれを母に告げた。その母が私の席の前を指差した。そこは来賓席で、なんと「鳥濱トメ殿」と記載されていた。式典会場の横が知覧特攻平和記念館となっており、私たちに「遠いところをお越しいただき

本当にありがとうございました」と笑顔で迎えてくださった。白髪交じりで初老の方が館長の板津忠正さんだった。この人は特攻隊員で唯一生き残られた方だった。

後に伺った話だが、陸軍特攻第213振武隊として12機で特攻出撃するもエンジントラブルでやむなく徳之島に不時着し、やつとの思いで知覧基地へ戻ると、一緒に出撃した11機は誰も帰ってこなかったそうだ。

生きていることへの重荷が両肩にのしかかる中で、上官に懇願し出撃命令を受けたものの、二度に渡る悪天候でやむなく中止。次に出撃命令が下ったのが8月15日。しかし、玉音放送で終戦を知り、「あの時故障さえしなければ……と、やりきれない思いに何度も眠れぬ夜を過ごした。そんな板津さんも実は心の支えになられた方がおられ、それが特攻の母ことトメさんだと聞かされた。

「あなたが生き残ったんは特攻隊のことを語り残す使命を授かったからじゃないの」。その言葉に励まされ、それから30余年をかけ特攻隊全員の遺影や遺書、遺品などの収集に当たり、これを後世に残し平和を祈念する場所として当会館の設立に寄与したのである。

展示室入り口には陶板で、壮絶な突撃任務を終え天に召されていく特攻隊員の姿が「知覧鎮魂の賦」として壁画に描かれており、まるで現在とその時代を結ぶ境界の様な感がある。中に入ると板津さんに、義烈空挺隊飯田秀臣少尉と記載されている遺影の前に案内された。説明していただいている途中で、私はハッ！とタイムスリップした。

「5月22日沖縄海戦に向け出撃され全機特攻任務遂行 戦死……」

辞世の短歌「白百合は櫻吹雪と散りゆくも、菊の香るときを思えば」

あの時祖母が「お前は生まれ変わりでからね」と言ったのは、自分の最愛の息子がお国のために命を捧げた5月22日が、奇しくも私が生まれた日と同じだったからだ。祖母は悲しくも最愛の息子に重ね合わせ私を育ててくれたのではないだろうか。

式典が始まった。車椅子で長女と一緒に席に着いた鳥濱トメさんが特攻隊員全員の母的役割を担っていたとすれば、この方は祖母の数百倍の悲しみを背負ってここに参加されているのではないか、と思った。慈愛にみちた眼差しの中に戦争に対する

悲しさが溢れ、二度と戦争を起こしてはいけないという願いを一輪の菊の花に託し、娘さんと献花された姿が今でも脳裏に焼き付いている。

これがトメさんにとって最後の慰霊祭参加となった。トメさんは翌年慰霊の日を待たず89歳で多くの特攻隊員が待つ元へ旅立たれたのである。

我々遺族もトメさんに続き祖母の思いも込めて献花し永久の平和を祈った。

激動の時代から復興・高度経済成長・バブル崩壊、年号も変わりふと顧みれば「昭和は遠くなりけり」。しかし尊い礎の上に今日があることを決して忘れてはならない。

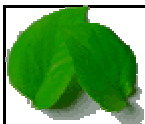


知覧特攻平和記念館



知覧特攻平和記念館横の特攻隊の銅像と初等練習機





ある防災士のつぶやき

備えよう！ 自宅で確実に生き残る対策を！！

会員 渡 邊 義 広

最近の防災についての「えっ？」と話題となっていることをいくつか紹介する。

まず、アメリカ生まれの「シェイク・アウト訓練」のお話。揺れが来たら 姿勢を低くして テーブルやかばんなどで頭を守る 揺れが収まるまでじっとする。とっさの安全確保行動である。「地震はいつどこでどんな状態でおこるかわからない。だからこそ、日頃から最低限、身を守るすべを学習する」ことを身につけるための訓練である。何を今さらという感じが、基本動作ができることで災害への意識が高まり、社会全体で被害を防ぐ行動につなげようというキャンペーンである。



参照データ 日本シェイクアウト
提唱会提供

次に、「避難準備情報」である。これは避難準備を開始するのではなく、高齢者などの人は指定の避難場所へ避難を開始するという意味である。「避難勧告」「避難指示」と続くが、勧告は全ての人の避難開始を意味し、指示は避難の完了を意味する。準備・勧告・指示の意味が違うのでご注意ください（役所の言葉は難しい）

そして、地震時にガスを使っていたときは、揺れを感じたら「火は消さず」にすぐに台所から離れて避難し命を守る行動を優先する。「えっ？まず火を消すんじゃないの？」と思うのが常識だが、都市ガスもLPガスも震度5以上の揺れを感知すると自動的にガスを遮断する安全装置が付いているので大丈夫。

最後に、自宅が一番安全な場所であるのが一番いいと言うお話。地震発生後の6時間は余震の発生確率が高いので、町内の安全な場所で「向こう三軒両隣でみんなで行動して」まず身を守ることを優先すること。コミセンなどの指定避難所は被災者の概ね2割程度しか収容できないので、家屋の全半壊、障害のある者、高齢者が優先される状況となる。市のスタッフも地震直後の市役所はあてにならないと言って憚らない。自宅避難はもちろん、自宅が耐震化され倒壊しないで、家具の固定化がされていて、3日間生き延びるために備蓄があるという日頃の備えが万全であることが前提である。

さて、2016年になってからの災害のニュースには「想定外」という言葉がついて回っている。想定外の地震や台風、記録的な大雨に対し、どのように備えたら良いのか。

熊本地震は、4月14日午後9時26分以降に相次いで発生した。現在の気象庁震度階級が制定されてから初めて震度7が2回観測された。これまでの考えは、本震があって後は余震で終息するのが常識だったので、本震並みの地震が複数回発生することは全くの想定外だった。最初の震度7に耐えた家屋も2度目、3度目の激震で倒壊してしまった。これが熊本地震の被害が大きくなった一因だった。

一方、台風の発生が近年になく遅いと言われた今年。ところが8月中に台風が相次いで4個上陸し、1962年と並び過去最多となった。11号は北海道に上陸、10号は日本近海を迷走後、統計史上初となる東北地方に太平洋から上陸した。東北・北海道では、台風が強い勢力を保ったまま直接上陸する災害経験が過去になく、防災面で正に想定外となり、堤防決壊や土砂崩れで甚大な被害となった。

自然の猛威は人知を超えており、想定外の災害には今の科学的知見と技術と防災をもってしても無力なのだとなれば、私たちは「想定外は想定内」くらいの強い気持ちで立ち向かうしか術はない。

だからこそ、自然災害から命を守る鉄則は3つである。

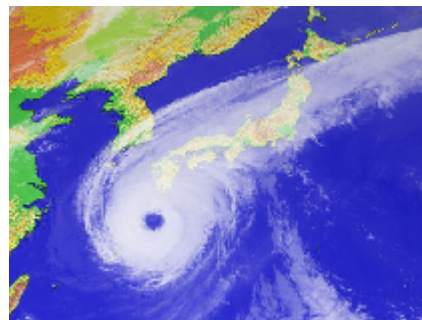
災害を「まさか自分が」とか「大丈夫だろう」と楽観視しない。災害の怖さを知り「甘く見ない」

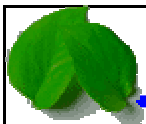
災害によって備えの仕方、避難の仕方が違うので「正しく学んで正しく備えて」間違いのない行動を取る。

いざ災害が起こったら「向う三軒両隣でつながってみんなで行動する」のである。

要は、使い古された格言「安きに居りて危うきを思う。思えばすなわち備えあり。備えあれば患いなし」の通りである。今日この頃、こんなことをつぶやいている。

（完）





エッセイ 値段という「怪物」

会員 秋山 紀 勝

娘が通勤、買い物、遊び用に軽乗用車を持っている。この半年でこの車に関して2つのトラブルがあった。

最初のトラブルは春先に起きた。バックしていて後部の一部をブロック塀にぶつめた。この「事故」で車の一部が壊れ、へこんだ。走行にはまったく関係ないので、一ヶ月以上、そのままにしていたが、夏が近づくころ「修理しよう」となった。

ある自動車メーカーの店舗に持ち込んで見積りを頼んだ。娘は「高くても十万円くらいか」と覚悟したそう。数日後、見積書が届いたが、何と「二十二万三千円」とあった。

医療の世界にセカンドオピニオンという言葉がある。私は娘に「車の修理もその手を使ったら」とアドバイスして、ある知り合いの修理屋さんを紹介した。その修理屋さんの見積もり額は「五万円」だった。一週間後、元通りになった車が戻ってきた。

四倍以上というこの「差額」は何だろう。素人には全く理解できない。自動車メーカーが意識的に「ぼったくった見積り」をしたとも思えないのだが、どう解釈すれば良いのだろう。

二度目は、きれいに修理された車が戻ってきて、一ヶ月くらい後に起きた。娘が初めて飛び込んだ県内のガソリンスタンドでガソリンを給油した時、若い店員が「エンジンの冷却水が不足状態です。早く補給した方が安心です」と言った。娘が「いくらかかるんですか」と聞くと、店員は「一万円くらいです」と答えた。娘は「今、持ち合わせが無いので」と言ってスタンドを立ち去った。

数日後、私がこの車を運転して市内の知り合いのスタンドに行った。お馴染みの店員が「どれどれ」と言ってエンジンを見た後、「確かに冷却水が減っています。補給しましょう」と言うのでお任せした。終わった後、私が「代金は」と言うと、「一〇八円」の伝票が渡された。

「えっ、こんなに安いの」

「だって、水道水でも構わないんですから」

「しかし……」

「秋山さんはお得意さんだから一〇〇円で良いですよ」

私は頭の中が混乱した。一万円と一〇〇円の違いは何だろう。あまりにも違い過ぎるではないか。

日本は自由経済の国だから、値段の設定はまったく自由だが、この話は結構、重用なことを示唆している。二つの話に共通しているのは、安い値段で対応したのが、いずれも知り合いの業者だったということだ。ということは、業者は初めての客（一見さん）に対しては、取り放題ということか。東京新宿・歌舞伎町界隈の怪しい飲み屋じゃああるまいし、まったく理解できない。

近江商人の言葉に「売り手良し、買い手良し、地域良し」という言葉がある。私は定年までサラリーマンだったから商売のことは良く分からないが、名言だと思う。

十年以上前、富士北麓で老舗ホテルを営んでいる経営者の話を聞いたことがある。リピーター客が多いので有名なホテルだが、経営者は「お客さんを大切にすることに尽きます」「そうすればお客さんがお客さんを連れて来てくれます」と言った。

近江商人とこの老舗ホテル経営者の話は、根っこで一致している。「お客さんを大切に（値段でも）して、また来てもらうことだ」。この自動車メーカーの見積もり担当者とガソリンスタンドの若い店員は、富士北麓の老舗ホテルに半年くらい修業に行った方が良い。（完）



ふれあい川柳会

手ぶらで来て手にあまる程持ち帰る

冷酒の喉をころがる熱帯夜

乱高下する血圧に悩むわれ

小池知事着物で日本アピール

高止まる生活保護費神の国

台風に追い回された二、三日

割り込みを注意したいが勇気なし

コンビニがつぎつぎわが街を占拠

東京へ重いメダルを掛けられる

渡辺武人

勝俣翠亭

深沢緋沙

土屋今朝枝

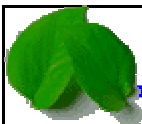
中澤一夫

堀内孝春

渡辺てるみ

川崎ふみこ

渡辺一九



明見の蓮

会員 笑 雲

明見の蓮を見に行きました。
花は早朝咲いて、日中は閉じるそうです。
一面に咲いて、とてもきれいです。まるで天国にいる
みたい……。

近い将来ここに行くのか……と眺めていましたら
哀妻（あいさい）が「見てごらん、ほら見えるでしょ
う？」と湖面を指差します。

湖面にはイケメンの顔が

「これ？」

「違うわよ。ずっと下の方……」

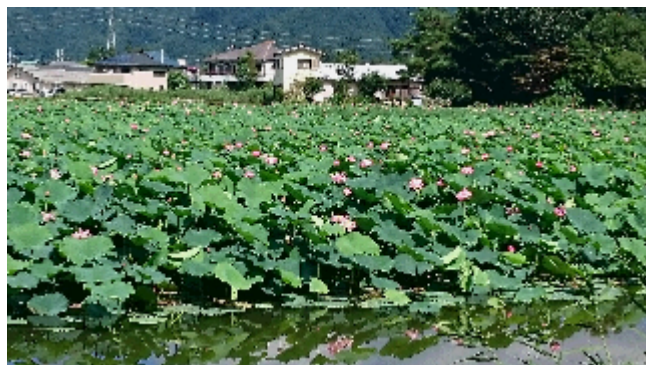
「何も見えないよ」

「見えるでしょう……ずっと、ずっと下の方に、ほら地獄が！」

「……」

「あなたはあそこへ、私はここよ」

現世ではこんなに仲が良いのに、あの世じゃ別々か……。



美德と強権政治

会員 隅 野 一 駒

雑誌「世界」2015年11月号に南米の小国ウルグアイの前大統領ホセ・ムヒカ氏へのインタビュー
記事が載っていた。

タイトルは、「世界で最も無欲な大統領」となっていた。だが今や前大統領の暮らす農園は「世界で一
番有名な農園」となっている、と記事は書いている。南米や北米に限らず世界に影響を及ぼす発信を行い、
その美德精神は揺るぎないものとなっている。2016年4月には訪日して、各地で歓迎を受け、特に若
者に影響を与えた。

前大統領の言葉がある。「政府は間違いを犯し得る。我々は政治を執るのに誤りを犯し得る。人間は無
謬ではない。しかし、誤りは許してもらい得る」「人々が許せないのは政治が下心に基づく場合だ。こう
なると人々は政治ばかりか自身をも信じられなくなる」「これは大変危険だ。ニヒリズム（独りよがり）
に行き着く。各人はなんとか自分でやりくりせよという世界に陥る」

翻って日本の現在はどうなっているのかと思うに何やら寒気がしてきた。季節のせいばかりではあるま
い。おお寒い。（終わり）

事務局だより

NPO 事務局長 渡邊敏雄

ふれあいセンター センター長佐藤雄三

7月27日（水）ふれあいセンターにおいてNPO主催「教養講座」前田康成氏講演会は、52名の参加
を得て開催、自画自賛になるが大成功だった。詳細別掲

8月7日（日）第29回北麓雀健クラブ大会は28名の参加。暑さのなか熱戦を繰り広げ上位3名の得点
が拮抗して最後まで予断を許さぬ展開だった。次回は30回の記念大会として12月初旬に行う事とし散
会した。

9月9日（金）かねてより設置が決まっていた自動販売機が市民ふれあいセンター玄関脇に設置された。

9月10日（土）第11回市民ふれあいセンター祭りが賑やかに開催。秋雨前線の合間の願っても無い好
天に恵まれ人出も多く、滞りなく終了できた。関係者のご苦勞に感謝。

9月26日（月）ふれあいセンターにて「文章講座」開催予定。

10月31日（月）～11月1日（火）、第7回研修旅行開催。岐阜県高山市にあるNPO法人と意見交換、
及び交流を語る。

11月6日（日）富士吉田フォーラム参加に向け、展示資料整理等開始

NPO法人理事会開催記録。

平成28年度第1回5月28日、第2回6月10日、第3回7月12日、第4回9月13日8月は青少年セン
ター多忙の為中止、以外は月に一度開催し、NPO組織の進展に向け意見を交え、意見集約を図っている。

教養講座に参加して

大人のための日本昔話

会員 堀 田 享 子



7月27日市民ふれあいセンターで、富士北麓まちづくりネットワーク主催の第7回教養講座が開かれました。講師として「まんが日本昔ばなし」でアニメーター、演出家として活動された富士河口湖町在住の前田康成さんをお招きしました。

5分前に会場に入ると、すでに満席に近い状態です。その後、まわりを見渡すと席に座れない方々が横に後ろにとぎっしりとまわりを囲み、皆さんの関心の深さが伝わってきました。

私も日本昔話の原画を描かれた方にこれからお会いし、どんな話が聞けるのかとわくわくした気持ちで待っていました。

数十年前まだ幼かった3人の子供達と一緒にテレビの前で「日本昔話」を見るのを毎回楽しみにしていたのを思い出しました。テレビの画面にでんでん太鼓を持った男の子を乗せた龍が空を飛び、「ぼうや良い子だ寝ねしな〜」のメロディーが流れると自然にその世界にすーっとひきこまる様な気がしました。

ほのぼのとした内容に親しみのある画風、それに声優さんの温かい口調が重なり、大人も子供も楽しめる作品でした。お地蔵さんや河童、擬人化された蛙・蛇・竜などが登場し、それぞれのキャラクターが光っていました。

今は30代になった娘に、日本昔話の印象をきいてみたらエンディングのテーマ曲が忘れられないとか……「いいな〜 いいな 人間て いいな〜」。私もそんな曲を思い出しました。また、一番印象に残っているのが「腐った大豆をお腹すいて食べちゃって美味しかったという納豆の話」だそうです。

日本昔話は、私にとってもまさに原風景そのものを連想させてくれました。子供時代すごい田舎で育った私には、家の外でニワトリが飼われこわごとと鶏小屋にはいり卵をとってきたこと、牛に餌をあげブラシをかけてやったこと、家族と広い田んぼで農作業をしたり川で遊んだりしたこと……など大自然に溶けこみ暮らした日々が懐かしく感じられました。



前田さんは「おとなの為の日本昔はなし」と題し話を進めました。1979年、前田さんは虫プロに入り、16年間でテレビアニメ「日本昔話」を90本も企画・演出・作画を担当されました。10分のアニメをつくるには、少なくとも1500枚の絵が必要だそうです。大変な根気と時間を要する作業だと思いました。

美術館のワークショップでは地元の子供達と一緒に、魚が泳いでいくさまを絵で連続させるアニメーションを作ったそうです。また、旧勝山村の民話を題材にした「ふう爺さん」を大型紙芝居にして西湖いやしの里にて展示・上演しています。

地域に密着し前田さんの目を通してみた富士山がしっかりと昔話絵本に描かれています。

また、都留市からの依頼で「平和を願う15000羽の折り鶴」の富士山をかたどった巨大壁画を企画・作成を担当されました。

講演の最後に富士山の神様・木花咲耶姫を描いた原画を2枚見せてくれました。中間色の淡い色調で雄大な富士山を背に美しく神々しい木花咲耶姫が今にも駆け上がろうとする馬にのり正面をむいて微笑んでいます。

この作品からはまわりを何か穏やかな空気にふわっと包みこむようなものを感じました。物静かで豊かな感性をお持ちの前田さんの講演を聞き、少しほっこりとした気分で帰ってきました。

第11回市民ふれあいセンター祭り 報告

センター長 佐藤雄三

9月10日(土)(ふれあいセンターまつりは雨が降らない)都市伝説の通り、好天に恵まれPM8:00から職員が集まりはじめ、挨拶もそこそこに作業に取り掛かる。机を屋外に持ち出し、テントの設営、看板の取り付け、焼きそばの台所、などなど手際よく進め。その内にバザー野菜販売の業者さんが集まり、場所割テント設営を手助け。前日にセットされたお茶席も10時の開始時にはお客さんが座っていた。第一会議室(美文字サークル)、第二会議室には新日本婦人の会がスタンバイ。終日お客が途切れなかった様子。表では焼きそばはじめ、たい焼き、牛丼オデンなども好評だった。パンについては到着が遅れて出遅れた感じ。それでもブランド力で巻き返し完売した。他の食べ物も予想通り売り切れた。

放課後児童クラブ室での子供映写会は2年目となり昨年同様のお客さんで賑わった。2Fでのパフォーマンス、今年の目玉はシャンソン歌手、小倉浩二さんのミニライブ。30分の短い間だったが見事な歌唱にうっとりしたご婦人方が多かったと思う。

尚、当日の入場者数は、約400人になった。何よりも好天に感謝感謝の一日となった。



パフォーマンス部門

午前10:20
午前10:40
午前11:00
午前11:30

昼食タイム

午後12:40
午後13:00
午後13:20
午後13:40
午後14:00
午後14:20
午後14:40
午後15:00

出演順

気功教室 鈴木先生
太極拳 こぶし・竹の花
特別出演 シャンソン
極真空手 荒井先生

大正琴 だんだんの会
うたごえ広場 田辺先生
ふれあいダンス 広井先生
ウクレレの会 アマトーレ
桜小町 日本舞踊
三線の会 あしびどうし
フラダンス アイカネフレマイ
閉会

収支決算

売上 87,260円
ご寄付 20,000円
合計 107,260円

支払 129,888円

22,628円

ご寄附

皇貴会
麻雀教室
二十会

今回は、特例として出演者全員に(約150人)粗品を進呈しました。

閉会后、じゃんけん大会を行いご寄附の商品及びパンなどを最後まで協力して頂いた方々に贈りました。

以上

富士吉田市立青少年センター

赤い屋根だより

24

電話 & F A X : 0555-23-7252

E-メール: akaiyane@mfi.or.jp

ホームページ: <http://www.mfi.or.jp/akaiyane/>

青少年センター赤い屋根 センター長 齋藤容子

全国的に台風による被害の多い夏でした。赤い屋根は心配したわりにさほど被害はありませんでしたが、台風の情報をいつも気にして過ごしました。

長雨はこのくらいにして、爽やかな秋が続いて欲しいです。この夏は例年通りの宿泊数でほっとしています。

7月 3日 ピザ窯設置

8月12日 池上英樹ミニコンサート

富士山河口湖音楽祭に参加のパーカッション奏者の池上英樹さんのマリンバとピアノによるコンサートが赤い屋根ロビーにおいて行われました。一般客や音楽祭参加の大勢の中学生で埋め尽くされたロビーに美しい音色が鳴り響き、盛り上がりしました。

9月17日 「インターナショナル茶道講座」

赤い屋根の和室にて外国人向けの茶道講座が行われました。ドイツ、ルーマニア、ジャマイカ、ベトナム、中国など参加国は5か国で英語と中国語の通訳が付き、地域の人とスタッフを合わせると40名になり賑わいました。和気あいあい、交流しながら茶道の初歩を学びました。

(別記事参照)

【予告】

10月25日 消火訓練(消防署立ち合い)

11月13日 ほのぼのコンサート(チャリティー)

赤い屋根ロビーにてラテンダンスミュージックグループとフォークソングの2本立てです。どうぞご期待下さい!!

インターナショナル茶道講座感想

参加者: 両者ともにドイツから参加 男性:Marcel 女性:Anna-Maria

今回は、日本の伝統芸能の一つである茶道を初体験するという、記憶に残るすばらしい経験が出来ました。

お菓子を頂くことから茶碗の扱い方、抹茶をたてる方法等、一つ一つの工程がとても魅力的で興味深い物でした。

斉藤先生による畳の上での正座の仕方や歩き方講座、とても楽しかったです。正座に慣れていない私たちはすぐに足が痛くなってきてしまい長くは続けられませんでした・・・

名前しか知らなかった茶道という日本芸能の中身を垣間みる事が出来たことに感激し、とても感謝しています。本当にありがとうございました。



During our summer holidays in Japan, we had the great chance to experience one part of the traditional Japanese culture: The tea ceremony.

We never joint a tea ceremony before, because this is not practiced in Germany.

All single steps like eating the sweets, holding and turning the tea bowl, drinking the tea and also the way of mixing the matcha powder with hot water in a tea bowl were very interesting and also fascinating.

Mrs. Saito taught us how to walk and sit on the tatami mat floor. Sitting on the floor was very unfamiliar for us and it didn't take long and our legs started to hurt.

Thank you very much for giving us the opportunity of gaining an insight into a traditional tea ceremony. We had a great time in Yamanashi and will always think back gracefully.

Many greetings from Germany

Marcel, Anna-Maria and the rest of the family